

令和2年度
授業計画書（シラバス）
～1年～



宮崎県立農業大学校

令和2年度実施 専攻別教育課程表 (1年生)

種別	学科	区分	科目 I D	1年生 開講科目	単 位 数	時 間 数	農学科専攻						畜産学科専攻			
							作物	野菜	花	果樹	茶	農 フ ード	畜 フ ード	肉 用 牛	酪 農	養 豚
教養科目	全学科	選択	K101	英会話(b)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			K102	数学	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			K103	保健・体育	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			K104	英語特別講義 I	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			K106	就職対策 I (e)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			K107	小論文演習(e)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専門科目	全学科	必修	M101	農政施策 I	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M103	アグリビジネス	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M104	スマート農業基礎	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M105	農業簿記	2	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M107	農業生産工程管理 (GAP)	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M108	インターンシップ I	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M109	インターンシップ II (a)	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M111	自主企画研修	4	120	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			M112	総合実習 (bcd)	6	180	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		選択	T101	農業機械基礎(c)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			T102	大型特殊機械演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			T103	食品加工演習(d)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			T104	農業機械(a)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			T105	会社経営(フード以外)	1	15	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲
			T106	環境保全型農業	1	15	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲
			T107	農業経営	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	農学科	必修	A101	専攻実習(農)	9	270	◎	◎	◎	◎	◎					
			A102	時間外実習(農)	5	150	◎	◎	◎	◎	◎					
			A103	農業概論	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		選択	B101	園芸施設と環境	1	15	▲	▲	▲	▲	▲					
			B102s	作物の栽培管理	1	15	▲									
			B102y	施設野菜の栽培管理	1	15		▲								
			B102h	花きの栽培管理	1	15			▲							
			B102k	果樹の栽培管理	1	15				▲						
			B102c	茶の栽培管理	1	15					▲					
			B103	先進農業事例研究	1	15	▲	▲	▲	▲	▲					
			B104	茶の加工	1	15					▲					
			B105	栽培環境	1	15	▲	▲	▲	▲	▲					
			B106	病害虫基礎	1	15	▲	▲	▲	▲	▲					
			B107	育種と知的所有権	1	15	▲	▲	▲	▲	▲					
	畜産学科	必修	Z101	専攻実習(畜)	9	270								◎	◎	◎
			Z102	時間外実習(肉、豚)	5	150								◎		◎
			Z103	時間外実習(酪)	7	210									◎	
			Z104	畜産概論	1	15								◎	◎	◎
		選択	Y101	人工授精演習	1	15								▲	▲	▲
			Y102	家畜の栄養と飼料	2	30								▲	▲	▲
			Y103	家畜の飼養管理	1	15								▲	▲	▲
			Y105	育種と繁殖 I	2	30								▲	▲	▲
	フードビジネス専攻	必修	F101	専攻実習(フード)	7	210						◎	◎			
			F102	時間外実習(フード)	5	150						◎	◎			
			F103	食品製造	1	15						◎	◎			
			F105	会社経営(フード)	1	15						◎	◎			
		選択	G101	食品衛生/食品表示	2	30						▲	▲			
			G102	食品化学	1	15						▲	▲			
			G103	食品製造実習	2	60						▲	▲			
			G104	食品の機能性	1	15						▲	▲			
			G108	フードビジネス	1	15						▲	▲			

- ◎ 必修科目 (卒業するために、履修・習得しなければならない科目)
○ 一般科目 (卒業するまでに履修しなければならない科目: 2年生のみ)
▲ 選択科目 (選択できる科目)

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K101	英会話		学科名	全学科	学年	1年	学期	前・後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～2月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う								
講師名	内藤 直美 外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	海外研修に向けて英語での簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる								
使用教材	講師の準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		学習態度(減点)			
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより70点満点で評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	英会話 1					1	5/19、6/2（1限目）		
2	英会話 2					1	6/9(1, 2限目)		
3	英会話 3					1	6/16(1, 2限目)		
4	英会話 4					1	6/23(1, 2限目)		
5	英会話 5					1	7/7(1, 2限目)		
6	英会話 6					1	7/14(1, 2限目)		
7	英会話 7					1	7/21(1, 2限目)		
8	英会話 8					1	7/28(1, 2限目)		
9	英会話 9					1	2/2(2, 3限目)		
10	英会話 10					1	2/9(2, 3限目)		
11	英会話 11					1	2/16(2, 3限目)		
12	英会話 12					1	3/2(2, 3限目)		
13	英会話 13					1	ALT農大ツアー 3時間×2回 日程未定 (11月もしくは2月)		
14	英会話 14					1			
15	英会話 15					1			
授業時間外に必要な学修	講師からの課題								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K102	数学		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月
科目の概要	農業に必要な数学の知識や計算力を身につける								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	数学の基礎知識や計算力を身につけ、ビジネス数学3級の取得を目指す								
使用教材	講師の準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	【把握力】グラフの把握					1			
2	【把握力】平均値、時差、集合の把握					1			
3	【分析力】利益、売上高の計算					1			
4	【分析力】割合を用いた計算					1			
5	【分析力】金利、仕入原価の計算					1			
6	【選択力】交通機関の選択、数値の比較による選択					1			
7	【選択力】割合、期待値による選択					1			
8	【予測力】到着時刻の予測、平均を用いた予測					1			
9	【予測力】加重平均を用いた予測					1			
10	【予測力】一次関数・連立方程式を用いた予測					1			
11	【表現力】グラフでの表見					1			
12	【表現力】図表の適切な使用法 関数のグラフ表現					1			
13	検定試験に向けた練習問題					1			
14	検定試験に向けた練習問題					1			
15	確認テスト					1			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	K103	保健・体育		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、実践と理論をとおして学ぶ。								
講師名	農業大学校職員 外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通して運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	各スポーツの基本技術習得						1		
2	各スポーツの基本技術習得						1		
3	各スポーツの基本技術習得						1		
4	試合形式による各スポーツの実践						1		
5	試合形式による各スポーツの実践						1		
6	試合形式による各スポーツの実践						1		
7	試合形式による各スポーツの実践						1		
8	試合形式による各スポーツの実践						1		
9	試合形式による各スポーツの実践						1		
10	試合形式による各スポーツの実践						1		
11	試合形式による各スポーツの実践						1		
12	試合形式による各スポーツの実践						1		
13	試合形式による各スポーツの実践						1		
14	試合形式による各スポーツの実践						1		
15	生涯を通じる健康についての講話						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K104	英語特別講義Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。								
講師名	内藤直美						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。英検準2級合格を目指す								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
2	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
3	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
4	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
5	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
6	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
7	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
8	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
9	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
10	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
11	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
12	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
13	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
14	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	講義開始時期までに英検3級合格を目指す。 講義終了時期に英検準2級合格を目指す。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K106	就職対策Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	磯野正子（一般常識） 愛甲祐子（文章表現・スピーチ）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける ・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料、SPIベーシック								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	就職試験対策一般常識①						1		
2	就職試験対策一般常識②						1		
3	就職試験対策一般常識③						1		
4	就職試験対策一般常識④						1		
5	就職試験対策一般常識⑤						1		
6	就職試験対策一般常識⑥						1		
7	就職試験対策一般常識⑦						1		
8	就職試験対策一般常識試験						1		
9	文章表現・スピーチ①						1		
10	文章表現・スピーチ②						1		
11	文章表現・スピーチ③						1		
12	文章表現・スピーチ④						1		
13	文章表現・スピーチ⑤						1		
14	文章表現・スピーチ⑥						1		
15	文章表現・スピーチ⑦						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和２年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	K107	小論文演習		学科名	全学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	理論的な文章構成方法を学び、大学編入試験のための小論文対策を行う。								
講師名	愛甲 祐子						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	大学編入試験に対応できる文章を書く技術を身につける。								
使用教材	講師が準備する教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	レポートを提出させ理解度を評価する			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	小論文作成演習					1			
2	小論文作成演習					1			
3	小論文作成演習					1			
4	小論文作成演習					1			
5	小論文作成演習					1			
6	小論文作成演習					1			
7	小論文作成演習					1			
8	小論文作成演習					1			
9	小論文作成演習					1			
10	小論文作成演習					1			
11	小論文作成演習					1			
12	小論文作成演習					1			
13	小論文作成演習					1			
14	小論文作成演習					1			
15	小論文作成演習					1			
授業時間外に必要な学修	講師が出す課題								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	M101	農政施策Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・県農業・農村の現状を知り、社会情勢の変化に対応した各種の農政施策を学ぶ。また、本県を代表する農畜産物の生産振興方策や、各種補助事業について学ぶ。								
講師名	農政企画課、農業連携推進課、農産園芸課、畜産振興課、農業経営支援課、鳥獣被害対策支援センター、JA宮崎経済連 販売流通課						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・本県農業の現状と各種施策を習得する								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	本県農業・農村の現状					2	農政企画課 課長補佐		
2	宮崎県農業・農村振興長期計画 試験①								
3	本県農産物の生産状況と振興対策					2	農産園芸課 課長補佐		
4	本県農産物の生産状況と振興対策 試験②								
5	本県畜産物の生産状況と振興対策					2	畜産振興課 課長補佐		
6	本県畜産物の生産状況と振興対策 試験③								
7	担い手の確保と育成対策 試験⑤					1	農業経営支援課 課長補佐		
8	中山間地域対策 試験⑥					1	農政企画課 中山間農業振興室 室長		
9	農畜産物の輸出について					3	農業連携推進課 課長補佐		
10	農畜産物の６次化の取り組みについて								
11	みやざきブランドの取り組みについて 試験④								
12	鳥獣害対策について					2	鳥獣被害対策 支援センター センター長		
13	鳥獣害対策について 試験⑦								
14	経済連・農協における取り組みについて					2	JA宮崎経済連 販売流通課長		
15	経済連・農協における取り組みについて 試験⑧								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	M103	アグリビジネス		学科名	全学科	学年	全学年	学期	通年
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～10月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	講義ごとのレポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						7/13 3限目		
2	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						7/20 2限目		
3	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						7/20 2限目		
4	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						7/27 2限目		
5	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						7/27 3限目		
6	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/7 2限目		
7	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/7 3限目		
8	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/14 2限目		
9	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/14 3限目		
10	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/28 2限目		
11	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						9/28 3限目		
12	木村幸司氏（KIMUERA FARM）仮						10/5 2限目		
13	〃						10/5 3限目		
14	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						10/12 2限目		
15	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義						10/12 3限目		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	M104	スマート農業基礎		学科名	農学科	学年	１年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	１	時間数	１５	開講時期	６月～９月
科目の概要	・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。								
講師名	宮崎大学講師、農業法人経営者、各メーカー担当者、農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	各講座ごとにレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	スマート農業の現状と今後の展開 ・ＩＣＴ技術の進化と生活・産業面での普及 ・ＡＩ・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開					3	宮崎大学 槐島准教授		
2									
3									
4	スマート農業の実践①農業経営のスマート化 ・ＩＣＴを活用した農業経営管理技術の効率化					2	株式会社 synergy farm		
5									
6	スマート農業の実践②農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農機等の一環経営技術					2	株式会社 ジェイエイフーズ みやざき		
7									
8	スマート農業の実践③農業用ドローンについて ・産業用ドローンの開発状況と活用事例 ・ドローンによる農薬散布・センシング実演					2	農大校指導職員		
9									
10	スマート農業の実践④ロボット等高性能農業機械について ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例 ・自動運転・精密農業を支える機構と今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演					2	ヤンマーアグリジャパン		
11									
12									
13	スマート農業の実践⑤農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果					2	富士通九州システムズ		
14									
15	スマート農業の実践⑥ＩｏＴを活用した集出荷施設について ・非破壊専科技術とその効果 ・異物除去技術とそのリスク					2	選果機メーカー		
16									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則、実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M105-1	農業簿記		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～6月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と清算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間 太志						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業簿記検定3級取得レベルを習得する								
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					1	担当講師：来間		
2	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					1			
3	貸借対照表の意味と構成					1			
4	貸借対照表の意味と構成					1			
5	損益計算書の意味と構成					1			
6	損益計算書の意味と構成					1			
7	取引と勘定、帳簿					1			
8	取引と勘定、帳簿					1			
9	仕訳					1			
10	仕訳					1			
11	仕訳					1			
12	仕訳					1			
13	資産、負債、資本					1			
14	資産、負債、資本					1			
15	収益と費用					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	M105-2	農業簿記		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～6月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と清算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間 太志							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農業簿記検定3級取得レベルを習得する								
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
16	収益と費用					1	担当講師：来間		
17	決算書作成					1			
18	決算書作成					1			
19	農業簿記の特徴と決算書の見方					1			
20	農業簿記の特徴と決算書の見方					1			
21	農業における収益と費用					1			
22	農業における収益と費用					1			
23	建物・農機具の減価償却の計算法					1			
24	建物・農機具の減価償却の計算法					1			
25	機具の減価償却の計算法					1			
26	機具の減価償却の計算法					1			
27	農外損益・特別損益、決算書					1			
28	農外損益・特別損益、決算書					1			
29	農外損益・特別損益、決算書					1			
30	試験①					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M107-1	農業生産工程管理 (GAP)		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～10月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理 (GAP) の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)		学習態度 (減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAPの基礎①					2	農業大学校指導職員		
2	GAPの基礎②								
3	国内外のGAPを取り巻く状況					2			
4	GAPの認証と導入								
5	リスク分析の考え方					2			
6	生産工程におけるリスク分析								
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					2			
8	労働安全のリスク分析								
9	GAP現地研修 (農大校ほ場)					2			
10	GAP現地研修 (農大校ほ場)								
11	ひなたGAPチェックリストの解説①					2			
12	ひなたGAPチェックリストの解説②								
13	GAP現地研修 (農大校ほ場)					2			
14	GAP現地研修 (農大校ほ場)								
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	M107-2	農業生産工程管理 (GAP)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、フード専攻以外は必ず履修すること）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4 月～6 月
科目の概要	・農業生産活動の持続性を確保するため、①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：垂水 啓二郎						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産GAPについて基礎的な知識を習得する。 ・GAPを理解し、実践する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産GAPの基礎と必要性					1	担当講師：垂水		
2	畜産GAPの基礎と必要性					1			
3	リスク分析の考え方					1			
4	生産工程におけるリスク分析					1			
5	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1			
6	労働安全のリスク分析					1			
7	GAP現地研修（住吉フィールド）					1			
8	GAP現地研修（住吉フィールド）					1			
9	GAP現地研修（住吉フィールド）					1			
10	GAPチェックリストの解説					1			
11	GAPチェックリストの解説					1			
12	GAPチェックリストの解説					1			
13	GAPチェックリストの解説					1			
14	GAPチェックリストの解説					1			
15	試験①					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	M108	インターンシップⅠ		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	5月下旬
科目の概要	農業生産現場において、栽培技術や経営概要等について実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書（30点）		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・先進農家等の農業に対する考え方や取組について学ぶ。 ・実習をとおして基本的な栽培技術について学ぶ。					18	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をとおして高度な栽培技術について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、農業経営について情報を収集する。					12	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M109	インターンシップⅡ		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	1月下旬
科目の概要	農産物の加工・流通・販売等について実践的に学ぶ。								
講師名	農産物加工・流通・販売を行う農業法人や一般企業						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・農作物の加工・流通・販売に関する知識を習得する。 ・農業法人や一般企業での研修をととして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・実習や見学をととして農作物の加工・流通・販売に関する取組について学ぶ。					18	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をととして農作物の加工・流通・販売に関する取組について学ぶ。 ・講師等との意見交換をととして、農業関連産業について情報を収集する。					12	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和２年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	M111	自主企画研修		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	1 0 月～1・1 月
科目の概要	高度な栽培技術や最新の加工・流通・販売に関する技術及び関連する経営概要を実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人、農産物の加工・流通・販売を行う農業生産法人や一般企業の職員等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術や経営概要、農産物の加工・流通・販売に関する技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者や農産物の加工・流通・販売の従事者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日 で採点し、0. 2 5 を乗ずる。		・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い） 5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1. 0 ・90%以上95%未満 0. 9 ・80%以上90%未満 0. 8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1 日 目 ～ 1 5 日 目	・研修先が立地する地域農業の概要について学ぶ。 ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・研修先の経営や業務に対する考え方や取組について学ぶ。 ・高度な栽培、加工に関する技術や販売方法について学ぶ。					90	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。 ・説明等を講義形式で行う場合がある。		
1 6 日 目 ～ 2 0 日 目	・高度で実践的な栽培、加工に関する知識や技術を学ぶとともに販売方法について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、経営感覚やリーダーシップを高める方法や地域づくりのビジョン構築等について情報を収集する。					30			
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M112-1	総合実習		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	6	時間数	180	開講時期	4月～7月
科目の概要	・各専攻作物の基本的な栽培管理技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農産物の生産技術や経営技術の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
回	内 容						時間	備 考	
1～180	各専攻品目の栽培管理等						180		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M112-2	総合実習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	6	時間数	180	開講時期	4月～7月
科目の概要	・肉用牛、乳用牛及び豚の基本的な飼養管理技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間太志、谷口美津子、佐藤登士夫、西礼華						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
回	内 容						時間	備 考	
1～40	家畜の飼養管理等						40	4月	
41～90	家畜の飼養管理等						50	5月	
91～140	家畜の飼養管理等						50	6月	
141～180	家畜の飼養管理等						40	7月	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕										
科目名	T101		農業機械基礎		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月
科目の概要	草刈り機取り扱いと基礎知識の取得。運搬車の操作方法、ローダの操作方法、葉散用動噴機の操作方法、トラクターによるロータリー実演の習得									
講師名	農業機械							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	安全衛生教育、小農器具の取扱と操作、トラクター実演の習得									
使用教材	刈り払い機（講習テキスト）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)		
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	刈払機に関する基礎と作業の知識（学科）						1			
2	〃						1			
3	振動障害及びその予防に関する知識（学科）						1			
4	関係法令（学科）						1			
5	草刈り機の点検及び整備に関する知識（学科）						1			
6	草刈り機の作業（実技）						1			
7	草刈り機刃の取り付け作業と燃料（実技）						1			
8	草刈り機の作業と事故事例（実技）						1			
9	圃場での草刈り演習（実技）						1			
10	運搬車、ローダの構造と点検整備・運転操作（実技）						1			
11	〃						1			
12	〃						1			
13	葉散用噴霧機の構造と点検整備・運転操作（実技）						1			
14	〃						1			
15	〃						1			
授業時間外に必要な学修	なし									
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出									

令和２年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	T102	大型特殊免許 (農耕用限定) 演習		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業機械						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。試験に合格			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法及び運転実習						1		
2	〃						1		
3	〃						1		
4	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技						1		
5	〃						1		
6	〃						1		
7	免許試験コースの運転練習及び評価						1		
8	〃						1		
9	〃						1		
10	〃						1		
11	〃						1		
12	〃						1		
13	〃						1		
14	〃						1		
15	〃						1		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	T103	食品加工演習		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～5月
科目の概要	食品に関する加工知識や農大産の農畜産物を利用した加工技術を学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○食品加工に関する基礎知識を身につける。 ○農畜産物を使った加工品を製造する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	授業の最後に小テストを行う。製造実習後は実習内容をまとめたレポートを提出させる。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
回	内 容					時間	備 考		
1	食品製造の意義及び目的					2			
	食品衛生、食中毒								
2	食品添加物、食品の表示					2			
	穀類の加工（小麦を使った加工）								
3	果実類の加工					2			
	製造実習事前指導（加工室の使用方法的説明、施設見学）								
4	イチゴジャム製造実習 実習レポート作成					3			
5	製パン（ジャムパン、食パン）製造実習 実習レポート作成					3			
6	焼き菓子（マドレーヌ）製造実習 実習レポート及び食品加工まとめレポート作成					3			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補習は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補習を認める。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕										
科目名	T104		農業機械		学科名	全学科 (フード専攻除く)	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月
科目の概要	機械士（農業機械全般に関するテスト、ノギスの使用方法、工具の取扱、トラクターの整備、プラウの着脱）農業機械に関する安全研修。									
講師名	農業機械							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	1年間の農業機械に関する知識が備わっているか、安全に操作出来ているか。									
使用教材	農業機械（教本）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)		
	基準	各項目ごとにペーパーと実技試験にて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
1	工具の取扱い(講義・実習)							1		
2	トラクターの構造・点検(講義・実習)							1		
3	トラクターの整備（実習）							1		
4	トラクターの構造・点検・整備（学科試験）							1		
5	工具の取扱い(実技試験)							1		
6	〃							1		
7	トラクターへのプラウの着脱・調整（実習）							1		
8	〃							1		
9	〃							1		
10	〃							1		
11	プラウの着脱・調整（実技試験）							1		
12	〃							1		
13	トラクターの安全走行（斜面走行）（演習）							1		
14	〃							1		
15	農作業安全の基本（DVD視聴、リスク管理によるグループワーク）							1		
授業時間外に必要な学修	なし									
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出									

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	T105	会社経営		学科名	全学科 フード以外	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	模擬会社の運営に関する意見交換会を行ったり、レポートを作成して提出させる。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	模擬会社に関する各組織ごとの運営・経理に関する研究						1		
2							1		
3							1		
4	模擬会社の新役員体制づくり（2年生との引き継ぎ）						1		
5							1		
6							1		
7	模擬会社に関する各組織ごとの会社運営活動						1		
8							1		
9							1		
10							1		
11							1		
12							1		
13	株主総会に向けて資料作成及び決算報告のまとめ						1		
14							1		
15							1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	T106	環境保全型農業		学科名	全学科 フード除く	学年	１年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	１	時間数	１５	開講時期	１１月～２月
科目の概要	・環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当（病害虫、土壌） 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和に留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料・農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	レポート・試験により理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	県内の先進的な取組事例視察研修 レポート					3	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員		
2									
3									
4	BLOF理論について①					2	一般社団法人 日本有機農業普及協会		
5	BLOF理論について② 試験					2	一般社団法人 日本有機農業普及協会		
6									
7	環境保全型農業とは何か 環境保全型農業の病害虫防除① 環境保全型農業の病害虫防除②					2	農業経営支援課 専門技術指導担当 (病害虫)		
8									
9									
10	環境保全型農業の病害虫防除③・試験					2	農業経営支援課 専門技術指導担当 (土壌)		
11	環境保全型農業における土づくり					2			
12	環境保全型農業における作付け体系								
13	環境保全型農業における土壌診断					2			
14	環境保全型農業における施肥管理・試験								
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	T107	農業経営		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択（就農・法人就農及び農業団体への進路希望者は必修）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・農業経営や農業簿記の基礎、将来設計作成方法を学ぶ。 ・学生出資会社の仕組みについて学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	・農業経営に関する知識を身につけ、将来のライフプラン及び経営シミュレーションを作成する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験及び作成した資料により、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	農業経営の基礎 農業経営の仕組み（個人経営の特徴）					2	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員		
2									
3									
4									
5	農業経営の仕組み（法人経営の特徴）					2	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員		
6	試験								
7	ライフプラン作成								
8	ライフプラン作成								
9	経営シミュレーション作成					2	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員		
10	経営シミュレーション作成								
11	経営シミュレーション作成								
12	経営シミュレーション作成								
13	会社経営（学生出資会社）の概要					1	農業大学校指導職員		
14	会社経営（学生出資会社）の概要					1	農業大学校指導職員		
15	会社経営（学生出資会社）の概要					1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A101-1	専攻実習（作物）		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	技能・技術（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	作物専攻で栽培する品目の特性、出荷調整技術を理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	作物専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	A101-2	専攻実習（野菜）		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	野菜専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	野菜専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	技能・技術（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	野菜専攻で栽培する品目の生理生態的特性を理解し、栽培管理とプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	野菜専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A101-3	専攻実習（花）		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・花専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	技能・技術（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	花専攻で栽培する品目の生育・開花特性、鮮度保持技術、開花調節技術を理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	花き専攻で栽培する品目の栽培技術、鮮度保持技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A101-4	専攻実習（果樹）		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	技能・技術（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	果樹専攻で栽培する品目の特性、出荷調整技術を理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	果樹専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A101-5	専攻実習（茶）		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	技能・技術（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	茶専攻で栽培する品目の特性、出荷調整技術を理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	茶専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A102	時間外実習		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	6月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術や出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得					150			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	A103	農業概論		学科名	農学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・各品目の生理生態と栽培管理技術について学ぶ。 ・6次化及び食品加工について学ぶ。								
講師名	農業大学校農学科指導職員 総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・品目ごとの生理生態や一般的な栽培管理技術を習得する。 ・農業技術検定資格取得を目指す。								
使用教材	・作物栽培の基礎、野菜栽培の基礎、果樹栽培の基礎、草花栽培の基礎（農文協） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	普通作物栽培 試験						2	農業大学校指導職員	
2									
3	露地野菜栽培 試験						2	農業大学校指導職員	
4									
5	花き栽培 試験						2	農業大学校指導職員	
6									
7	果樹栽培 試験						2	農業大学校指導職員	
8									
9	茶栽培 試験						2	茶業支場職員	
10									
11	フードビジネス関連 試験						2	農業大学校指導職員	
12									
13	施設野菜栽培 試験						3	農業大学校指導職員	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B101	園芸施設と環境		学科名	農学科	学年	１年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	１	時間数	15	開講時期	11月～2月
科目の概要	・園芸資材や被覆資材、ハウスの基本仕様等について学ぶ。 ・施設内環境の制御技術について学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当 JA宮崎経済連 建築設計センター 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	園芸施設の基本的な知識を習得するとともに、施設内の環境制御技術を習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	施設園芸の現状について					2	農業経営支援課 専門技術指導担当		
2	被覆資材について								
3	光環境制御について								
4	温度制御について					2			
5	湿度制御について								
6	複合環境制御と省エネルギー対策について								
7	農業用廃プラスチックのリサイクルについて					2			
8	まとめ・試験								
9	県標準型ハウスの基本仕様と構造					2	JA宮崎経済連 建築設計 センター		
10									
11									
12									
13									
14						2			
15	試験					1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B102-1	作物の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 (作物専攻は必ず選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	・ 水稻、麦類、豆類を対象に、これら作物を取り巻く情勢、特性及び栽培技術の理論等を学修する。 ・ 特に、水稻では、2月の育苗から栽培が始まることから、これにあわせ栽培管理の前半に重要となる育苗技術や水管理を中心に学修する。また、11月から栽培が始まる麦類の栽培管理技術を学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 作物の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	作物栽培の基礎 作物学の基礎Ⅰ 野菜園芸学の基礎 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90％を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の作物生産の現状						1		
2	水稻の栽培の基本（施肥、生育診断ほか）						1		
3	水稻栽培における水管理（生育時期ごとの水管理）						1		
4	水稻の育苗（育苗前半の管理）						1		
5	水稻の育苗（育苗後半の管理）						1		
6	豆類栽培の基礎（大豆・落花生等の特性）						1		
7	麦類を取り巻く状況（麦類の種類、国内の生産状況と課題ほか）						1		
8	麦類の栽培方法						1		
9	その他の穀物の栽培管理						1		
10	その他の穀物の栽培管理						1		
11	露地野菜の栽培管理						1		
12	露地野菜の栽培管理						1		
13	露地野菜の栽培管理						1		
14	露地野菜の栽培管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	講義内容を深めるための学修及び講義内容以外の関連事項の学修。								
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験はしない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	B102-2	施設野菜の栽培管理		学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択 (野菜専攻は必ず選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
2	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
3	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
4	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
5	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
6	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
7	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
8	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
9	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
10	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
11	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
12	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1		
13	野菜プロジェクト学習成果発表						1		
14	野菜プロジェクト学習成果発表						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B102-3	花きの栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 (花専攻は必ず 選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	・花きの分類、花きの特性と栽培・利用について専門的に学習する。 ・花きの各品目の開花特性・栽培管理について専門的に学習する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・花きの分類と開花調節、鮮度保持技術について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	草花栽培の基礎 講師準備資料（花き栽培指針）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	14時間の講義終了後、100点満点 の評価試験を実施、得点の90％ を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点 数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	宮崎県の花き生産の現状及び人間生活と花と緑					1			
2	花きの成長・開花と環境（開花調節など）					1			
3	花きの品質と品質保持（鮮度保持技術）					1			
4	キクの栽培管理					1			
5	スイートピーの栽培管理					1			
6	トルコギキョウの栽培管理					1			
7	ダリアの栽培管理					1			
8	ユリ類の栽培管理					1			
9	デルフィニウムの栽培管理					1			
10	バラの栽培管理					1			
11	ラナンキュラスの栽培管理					1			
12	ホオズキ・アネモネの栽培管理					1			
13	ポインセチア・シクラメンの栽培管理					1			
14	花壇苗類・洋ラン類の栽培管理					1			
15	試験					1			
授業時間外に 必要な学修	特になし。								
再試験及び補 習対象の実施 基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験はしない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B102-4	果樹の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 (果樹専攻は必ず選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	・果樹の分類、果樹の特性と栽培・利用について専門的に学習する。 ・果樹の各品目の特性・栽培管理について専門的に学習する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	果樹栽培の基礎 講師準備資料（果樹栽培指針）								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90％を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	宮崎県の果樹生産の現状					2	農業大学校指導職員		
2	果樹の成長・環境など								
3	果樹の病害虫について					2			
4	マンゴーの栽培管理								
5	マンゴーの栽培管理					2			
6	ライチの栽培管理								
7	きんかんの栽培管理					2			
8	きんかんの栽培管理								
9	みかんの栽培管理					2			
10	みかんの栽培管理								
11	日向夏の栽培管理					2			
12	日向夏の栽培管理								
13	ぶどうの栽培管理					2			
14	ぶどうの栽培管理								
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験はしない。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B102-5	茶の栽培管理		学科名	農学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 (茶専攻は必ず 選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～9月
科目の概要	・茶樹の生理生態と基本的な栽培技術について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・茶の栽培管理の体験や生育・収量調査及び病害虫の発生調査等を通して、茶樹の生理生態と基本的な栽培技術を理解させる。								
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	茶の生育と茶園管理スケジュール					1	茶業支場支場長		
2	茶の育苗・定植					1	茶業支場育種科		
3	茶の幼木管理					1	茶業支場育種科		
4	茶の摘採（被覆）					1	茶業支場栽培加工科		
5	茶の収量・品質					1	茶業支場栽培加工科		
6	茶の剪枝方法					1	茶業支場栽培加工科		
7	茶の病害虫①					1	茶業支場栽培加工科		
8	茶の病害虫②					1	茶業支場栽培加工科		
9	茶の病害虫③					1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の病害虫防除①					1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の病害虫防除②					1	茶業支場栽培加工科		
12	茶の施肥方法					1	茶業支場栽培加工科		
13	茶の有機栽培他					1	茶業支場栽培加工科		
14	茶の防霜対策					1	茶業支場栽培加工科		
15	試験					1	茶業支場支場長		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験はしない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B103	先進農業事例研究		学科名	農学科	学年	１年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	１	時間数	１５	開講時期	９月～１２月
科目の概要	先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（８０点）			出席率（２０点）		学習態度(減点)		
	基準	・提出 提出あり：４０点 提出なし：０点 ・内容 Ａ（良い）４０点 Ｂ（普通）２０点 Ｃ（悪い）１０点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・９５％以上 １．０ ・９０％以上９５％未満 ０．９ ・８０％以上９０％未満 ０．８ ・７０％以上８０％未満 ０．７ ・７０％未満 ０		講義中の態度、提出物により２０点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
１	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組①					６	農業大学校指導職員		
２									
３									
４									
５									
６	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組②					６	農業大学校指導職員		
７									
８									
９									
１０									
１１	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組③					３	農業大学校指導職員		
１２									
１３									
１４									
１５									
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	B104	茶の加工		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択 (茶専攻は必ず 選択する)	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～9月
科目の概要	・茶の基本的な加工技術と審査法について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・茶の基本的な加工技術と審査法の知識を修得させる。								
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	茶の分類、生葉の取り扱いと保管					1	茶業支場栽培加工科		
2	煎茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
3	煎茶の製造法②					1	茶業支場栽培加工科		
4	製茶工場設備と衛生管理					1	茶業支場栽培加工科		
5	玉露、てん茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
6	蒸し製玉緑茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
7	釜炒り茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
8	釜炒り茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
9	半発酵茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の仕上げ加工法					1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の貯蔵と包装					1	茶業支場栽培加工科		
12	煎茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
13	釜炒り茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
14	半発酵茶、紅茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
15	試験					1	茶業支場栽培加工科		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験を実施しない。								

令和２年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	B105	栽培環境		学科名	農学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～1月
科目の概要	・農業生産の基本となる土壌・肥料の知識を学ぶ。 ・農業気象の基礎知識を学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当 総合農業試験場 企画情報室 職員 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	土壌や肥料、農業気象の基礎知識を習得し、プロジェクト学習に資する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）			学習態度(減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	作物と土・肥料、土の生成					2	農業経営支援課 専門技術指導担当		
2	土の組成								
3	微生物のはたらき					2			
4	養分を保持するはたらき								
5	土の酸性と中和、水と空気を保持するはたらき					2			
6	作物の吸収する養分								
7	肥料の成分と性質					2			
8	各種肥料の性質								
9	施肥設計					2			
10	水田・畑・施設園芸の土の管理								
11	土壌診断書を読み解く					2			
12	本県の施設土壌の実態と対策								
13	天気のおくみ（農業気象の基礎）					2	総合農試 企画情報室 （気象予報士）		
14	宮崎の地形と気象災害								
15	試験					1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	B106	病虫害基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～10月
科目の概要	・病虫害の発生や生態の基本知識を学ぶ。 ・農薬の取扱方法について学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当 総合農業試験場 生物環境部 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	植物の病気発生メカニズム、害虫の生態を学ぶとともに農薬の種類、特性、使用法を習得させる。								
使用教材	・図解でよくわかる病虫害のきほん（誠文堂新光社） ・図解でよくわかる農薬のきほん（誠文堂新光社） ・農薬概説2020（日本植物防疫協会） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	作物保護と農薬、植物防疫 関係法令、農薬の一般知識 農薬のリスクと安全性評価 農薬の安全・適正使用					2	農業大学校 指導職員		
2									
3	主な植物の病気とその被害例、防除方法 主な殺菌剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意					2	農業経営支援課 専門技術指導担当		
4						2			
5									
6									
7									
8	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法 主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意					2	総合農試 生物環境部 副部長		
9						2			
10									
11									
12									
13						2			
14									
15	試験					1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和２年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B107	育種と知的所有権		学科名	農学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	- 品種改良や新品種育種について学ぶ。 - 品種登録と種苗法について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場 作物部研究員、野菜部研究員、花き部研究員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物の育種方法及び品種登録、種苗法について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	新品種の作出、品種登録、種苗法 農業試験場で作出された品種と育成 試験①						2	総合農業試験場 花き部研究員	
2									
3									
4									
5	作物の遺伝と育種、繁殖 農業試験場で作出された品種と育成 試験②						2	総合農業試験場 作物部研究員	
6									
7									
8									
9	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 試験③						2	総合農業試験場 野菜部研究員	
10									
11									
12									
13	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 試験③						3	総合農業試験場 野菜部研究員	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Z101	専攻実習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～20	家畜の飼養管理等					20	7月		
21～50	家畜の飼養管理等					30	8月		
51～70	家畜の飼養管理等					20	10月		
71～100	家畜の飼養管理等					30	11月		
101～130	家畜の飼養管理等					30	12月		
131～160	家畜の飼養管理等					30	1月		
161～220	家畜の飼養管理等					60	2月		
221～270	家畜の飼養管理等					50	3月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和２年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Z102	時間外実習 (肉用牛、養豚)		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を行う。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間太志、佐藤登士夫、西礼華 ・畜産試験場川南支場養豚科						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～6	家畜の飼養管理等					6	7月		
7～24	家畜の飼養管理等					18	8月		
25～42	家畜の飼養管理等					18	9月		
43～60	家畜の飼養管理等					18	10月		
61～78	家畜の飼養管理等					18	11月		
79～96	家畜の飼養管理等					18	12月		
97～114	家畜の飼養管理等					18	1月		
115～132	家畜の飼養管理等					18	2月		
133～150	家畜の飼養管理等					18	3月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】											
科目名		Z103		時間外実習 (酪農)		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前・後期
授業の方法		実習		区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	7月～3月
科目の概要		・酪農の搾乳や飼養管理などの実習を行う。									
講師名		・農業大学校指導職員：谷口美津子、西礼華							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標		・酪農の搾乳や飼養管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。									
使用教材		・講師作成資料									
成績評価		方法	知識（40点）			技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
		基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。			講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）											
回		内 容						時間	備 考		
1～10		家畜の飼養管理等						10	7月		
11～35		家畜の飼養管理等						25	8月		
36～60		家畜の飼養管理等						25	9月		
61～85		家畜の飼養管理等						25	10月		
86～110		家畜の飼養管理等						25	11月		
111～135		家畜の飼養管理等						25	12月		
136～160		家畜の飼養管理等						25	1月		
161～185		家畜の飼養管理等						25	2月		
186～210		家畜の飼養管理等						25	3月		
授業時間外に必要な学修		特になし									
再試験及び補習対象の実施基準		時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。									

令和2年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z104	畜産概論		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4 月～6 月
科目の概要	・畜産物生産の意義と役割、畜産の経営、畜産物の生産から流通、利用に至るまでの畜産全般について基礎的なことを広く学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：垂水 啓二郎（1～5）、今吉 里華（6～8）、佐藤 登士夫（9～11）、西 礼華（12～15）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産全般について基礎的な知識を習得する。 ・農業技術検定3級程度の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	家畜と人間生活（畜産の意味、畜産の歩み） ●〈畜産概論〉我が国畜産の沿革及び特徴					1	担当講師：垂水		
2	家畜の主要品種の改良と特徴 ●〈畜産概論〉家畜の主要品種の特徴					1			
3	乳用牛、肉用牛、豚の一生と生産、畜産経営形態の種類と特徴 ●〈畜産概論〉主要畜産物（乳・肉等）の生産に関与する要因					1			
4	家畜飼養管理、畜産の環境と防疫、動物福祉（アニマルウェルフェア）、牛トレーサビリティ制度、生産工程管理（HACCP、GAP等） ●〈畜産概論〉家畜の飼養管理とアニマルウェルフェア					1			
5	試験① ●〈畜産概論〉					1			
6	畜産物の利用（乳と乳製品）					1	担当講師：今吉		
7	畜産物の利用（肉と肉製品）					1			
8	畜産物の利用（卵と卵の利用、機能性食品、皮・毛・羽毛、医療用器材）					1			
9	家畜の生産機能（産卵生理）					1	担当講師：佐藤		
10	家畜飼育の実際（ニワトリの品種（地鶏含む）、ニワトリの栄養・飼料・消化生理）					1			
11	家畜飼育の実際（ニワトリの飼育技術、ニワトリの病気）					1			
12	畜産経営と畜産物の流通（世界の中の日本畜産）					1	担当講師：西		
13	畜産経営と畜産物の流通（生産の形態と経営）					1			
14	その他の家畜（ヤギ、ヒツジ、ウマ）					1			
15	試験②					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y101	人工授精演習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 (ただし、 フード専攻以外は 必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	・家畜人工授精業務に必要な知識と技術を習得するため、家畜の審査方法、生殖器の構造とともに、人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法等について学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間 太志、佐藤 登士夫、谷口 美津子、西礼華 畜産試験場川南支場：岐本博紀 (豚) ・群管理サービスさどわら家畜診療所：村田定信氏 (牛) (1～71)、全国 和牛登録協会宮崎県支部：鹿子一彦氏 (肉用牛) (64～67)、 県経済連：土持健太郎氏 (乳用牛) (68～70)						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・生殖器 ・講師作成資料 等								
成績評価	方法	知識 (40点)		技能・技術 (40点)		出席率 (20点)		学習態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」(国)の科目名及び内容					時間	備 考		
1	生殖器解剖 ● (生殖器解剖) 生殖器の解剖					1	講師担当： (牛)谷口、(豚)西		
2	生殖器解剖 ● (生殖器解剖) 生殖器の解剖					1			
3	生殖器解剖 ● (生殖器解剖) 生殖器の解剖					1			
4	生殖器解剖 ● (生殖器解剖) 生殖器の解剖					1			
5	評価① ● (生殖器解剖) 生殖器の解剖					1	担当講師：谷口		
6	人工授精 ● (人工授精) 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
7	人工授精 ● (人工授精) 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
8	評価② ● (人工授精) 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
9	家畜の体尺測定 ● (家畜の審査) 家畜の体尺測定					1	担当講師： (肉用牛)和牛登録協会宮 崎県支部 鹿子一彦氏 (豚)川南支場養豚科長		
10	家畜の体尺測定 ● (家畜の審査) 家畜の体尺測定					1			
11	家畜の体尺測定 ● (家畜の審査) 家畜の体尺測定					1			
12	評価③ ● (家畜の審査) 家畜の体型審査					1			
13	家畜の体型審査 ● (家畜の審査) 家畜の体型審査					1	担当講師： (乳用牛)経済連 土持 健太郎氏 (豚)川南支場養豚科長		
14	家畜の体型審査 ● (家畜の審査) 家畜の体型審査					1			
15	評価④ ● (家畜の審査) 家畜の体型審査					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	Y102-1	家畜の栄養と飼料		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、フード専攻以外は必ず履修すること）	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：佐藤 登士夫(1～8, 12～14, 15) 西 礼華(9～11, 15)、来間 太志(16～27) ・畜産試験場：(28～30)						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・目で見える牧草と草地 ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	牛の栄養（栄養素） ●《家畜の栄養》家畜における消化及び吸収の仕組み					1	担当講師：佐藤		
2	牛の栄養（栄養素） ●《家畜の栄養》家畜における消化及び吸収の仕組み					1			
3	牛の栄養（消化器の構造と機能） ●《家畜の栄養》家畜における消化及び吸収の仕組み					1			
4	牛の栄養（消化器の構造と機能） ●《家畜の栄養》家畜における消化及び吸収の仕組み					1			
5	牛の栄養（飼料の種類と特性） ●《家畜の栄養》飼料の種類及び特性					1			
6	牛の栄養（飼料の種類と特性） ●《家畜の栄養》飼料の種類及び特性					1			
7	牛の栄養（飼料の配合と給与） ●《家畜の栄養》飼料の配合及び給与					1			
8	牛の栄養（飼料の配合と給与） ●《家畜の栄養》飼料の配合及び給与					1	担当講師：西		
9	豚の栄養（消化器の構造と機能） ●《家畜の栄養》家畜における消化及び吸収の仕組み					1			
10	豚の栄養（飼料の種類と特性） ●《家畜の栄養》飼料の種類及び特性					1			
11	豚の栄養（飼料の種類と特性） ●《家畜の栄養》飼料の種類及び特性					1	担当講師：佐藤		
12	家畜の栄養状態の把握 ●《家畜の栄養》飼料の配合及び給与					1			
13	家畜の養分要求量の把握 ●《家畜の栄養》飼料の配合及び給与					1			
14	飼料設計診断 ●《家畜の栄養》飼料の配合及び給与					1	担当講師：佐藤、西		
15	試験① ●《家畜の栄養》					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y102-2	家畜の栄養と飼料		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、 フード専攻以外は 必ず履修すること)	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：佐藤 登士夫(1～8, 12～14, 15) 西 礼華(9～11, 15)、来間 太志(16～27) ・畜産試験場：酪農飼料部(28～30)						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・目で見える牧草と草地 ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
16	飼料作物生産の意義					1	担当講師：来間		
17	飼料作物の栽培と品種①(春夏作)					1			
18	飼料作物の栽培と品種③(秋冬作)					1			
19	飼料作物の栽培と品種④(水田転作作物)					1			
20	飼料作物の栽培・収穫に係わる機械化体系					1			
21	飼料作物の調製①(サイレージ)					1			
22	飼料作物の調製②(乾草)					1			
23	放牧草地の利用と生産					1			
24	飼料作物の生産費					1			
25	飼料作物の土壌①					1			
26	飼料作物の土壌①					1			
27	試験②					1			
28	本県における飼料作物栽培の現状と適正施肥					1	担当講師：畜産試験場 酪農飼料部		
29	飼料作物関連新技術、エコフィードの活用					1			
30	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	Y103	家畜の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、 フード専攻以外は 必ず履修すること）	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	・家畜の飼養管理体系と環境に応じた飼養管理技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員：来間 太志（1～4、7）、佐藤 登士夫（5～7）、谷口美津子（8～11）、西 礼華（12～15）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の飼養管理体系や環境に応じた飼養管理技術の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト、畜産学入門、日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳牛、肉用牛、豚）、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	牛に対する環境の影響 ●《家畜の飼養管理》家畜に対する環境の影響					1	担当講師：来間		
2	牛の管理施設の種類と特長 ●《家畜の飼養管理》畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
3	一般的な飼養管理方法（肉用牛繁殖） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
4	一般的な飼養管理方法（肉用牛繁殖） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
5	一般的な飼養管理方法（肉用牛肥育） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1	担当講師：佐藤		
6	一般的な飼養管理方法（肉用牛肥育） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
7	試験① ●《家畜の飼養管理》					1	担当講師：来間、佐藤		
8	一般的な飼養管理方法（酪農） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1	担当講師：谷口		
9	一般的な飼養管理方法（酪農） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
10	一般的な飼養管理方法（酪農） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
11	試験② ●《家畜の飼養管理》					1			
12	豚の特性と環境などの影響 ●《家畜の飼養管理》家畜に対する環境の影響					1	担当講師：西		
13	豚の管理施設の種類と特長 ●《家畜の飼養管理》畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
14	一般的な飼養管理方法（豚） ●《家畜の飼養管理》一般的飼養管理方法					1			
15	試験③ ●《家畜の飼養管理》					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y105-1	育種と繁殖Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、フード専攻以外は必ず履修すること）	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。								
講師名	・宮崎大学：石田孝史氏（1～7）、 ・農業大学校指導職員：佐藤 登士夫（8～12）、垂水 啓二郎（13～14） ・家畜改良事業団：横山寛二氏（15～19）、獣医師：村田定信氏（20～30）							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	家畜の育種（家畜の遺伝の原理） ●〈家畜の育種〉家畜の遺伝の原理					1	担当講師：宮崎大学 石田孝史氏		
2	家畜の育種（家畜の遺伝の原理） ●〈家畜の育種〉家畜の遺伝の原理					1			
3	家畜の育種（家畜の主要形質の遺伝） ●〈家畜の育種〉家畜の主要形質の遺伝					1			
4	家畜の育種（家畜の主要形質の遺伝） ●〈家畜の育種〉家畜の主要形質の遺伝					1			
5	家畜の育種（家畜の選抜、交配および能力検定）（牛・豚） ●〈家畜の育種〉家畜の選抜方法及びその特徴、能力検定					1			
6	家畜の育種（家畜の選抜、交配および能力検定）（牛・豚） ●〈家畜の育種〉家畜の選抜方法及びその特徴、能力検定					1			
7	家畜の育種（家畜登録制度）（牛・豚） 試験① ●〈家畜の育種〉家畜の登録制度					1	担当講師：佐藤		
8	妊娠と分娩（受精・発生） ●〈種付けの理論〉（妊娠と分娩）雌生殖器官内における精子及び卵子の移動並びに					1			
9	妊娠と分娩（胎子・胎膜の発育と着床） ●〈繁殖生理〉胚、胎児の発育及び妊娠による母胎の変化					1			
10	妊娠と分娩（妊娠の経過と妊娠診断） ●〈繁殖生理〉分娩の経過及び分娩後の繁殖機能					1			
11	妊娠と分娩（分娩と産褥、繁殖障害） ●〈繁殖生理〉繁殖障害の概念及び原因					1			
12	妊娠と分娩（分娩と産褥、繁殖障害） 試験② ●〈繁殖生理〉繁殖障害の概念及び原因					1			
13	人工授精技術Ⅰ（家畜人工授精の意義） ●〈人工授精〉人工授精技術の発展の歴史、人工授精技術の意義及び得失					1	担当講師：垂水		
14	人工授精技術Ⅰ（家畜人工授精の意義） 試験③ ●〈人工授精〉					1			
15	人工授精技術Ⅱ（精液の採取と検査） ●〈人工授精〉精液の採取、精液及び精子の検査					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y105-2	育種と繁殖Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、フード専攻以外は必ず履修すること）	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。								
講師名	・宮崎大学：石田孝史氏（1～7）、 ・農業大学校指導職員：佐藤 登士夫（8～12）、垂水 啓二郎（13～14） ・家畜改良事業団：横山寛二氏（15～19）、獣医師：村田定信氏（20～30）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		学習態度（減点）			
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
16	人工授精技術Ⅱ（精液の採取と検査） ●（人工授精）精液の採取、精液及び精子の検査					1	担当講師：家畜改良事業団 横山寛二氏		
17	人工授精技術Ⅱ（X精子・Y精子の選別分取処理） ●（人工授精）精液及び精子の検査					1			
18	人工授精技術Ⅱ（精液の凍結保存） ●（人工授精）保存性の特性及び精液の希釈、精液の液状保存及び凍結保存					1			
19	人工授精技術Ⅱ（精液の凍結保存） 試験④ ●（人工授精）保存性の特性及び精液の希釈、精液の液状保存及び凍結保存					1			
20	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）人工授精器具等の種類及び特性					1	担当講師：獣医師 村田定信氏		
21	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）人工授精器具等の種類及び特性					1			
22	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）人工授精器具等の種類及び特性					1			
23	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）消毒の原理及び方法					1			
24	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）消毒の原理及び方法					1			
25	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）消毒の原理及び方法					1			
26	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●（人工授精）消毒の原理及び方法					1			
27	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●（人工授精）精液の注入					1			
28	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●（人工授精）精液の注入					1			
29	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●（人工授精）精液の注入					1			
30	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） 試験⑤ ●（人工授精）精液の注入					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	F101	専攻実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期	前期 後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	4月～3月
科目の概要	農産物、畜産物を様々な手法を使って加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	○農産物、畜産物の加工技術を習得する。 ○食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識の習得を判断する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
回	内 容					時間	備 考		
10	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識					10			
46	農大産の作物を使った焼き菓子（マドレーヌ、パウンドケーキ等）製造					46			
42	農大産の作物を使ったジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造					42			
56	農大産の牛乳を使ったアイスクリームの製造					56			
56	農大産の畜産物を使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造					56			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補習は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補習を認める。								

3

科目名	F102	時間外実習			学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期	前・後期
授業の方法	実習		区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	4月～3月
科目の概要	フードビジネス専攻において、必要な資格取得に関する学習や学生模擬会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う									
講師名	各種資格取得先講師 農業大学校 職員							実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	各資格取得のための講習・各種イベント等への参加を行い、各種資格取得し、各自の技術向上を図る									
使用教材	資格取得のためのテキスト									
成績評価	方法	知識（４０点）			技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		学習態度(減点)	
	基準	作業時間の記録簿の記録状況と作業内容の確認とパソコン集計時間で評価する			講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
月	内 容						時間	備 考		
4	時間外実習						12.5			
5	時間外実習						12.5			
6	時間外実習						12.5			
7	時間外実習						12.5			
8	時間外実習						20.0			
9	時間外実習						12.5			
10	時間外実習						12.5			
11	時間外実習						12.5			
12	時間外実習						12.5			
1	時間外実習						12.5			
2	時間外実習						12.5			
3	時間外実習						5.0			
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。									
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。									

令和２年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	F103	食品製造		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期	前期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～5月
科目の概要	農産物、畜産物の加工方法について学び、食品製造における基礎的な技術について学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の特性に応じた基礎的な製造技術について理解する。								
使用教材	講師が配布する食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	14時間の演習終了後、評価試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	加工室、加工器具類の取り扱い説明, 食品衛生に関する基礎知識						1		
2							1		
3							1		
4	農大産の野菜・作物を使った焼き菓子製造に関する基礎知識						1		
5							1		
6							1		
7	農大産の小麦を使った製パン製造実習に関する基礎知識						1		
8							1		
9							1		
10	農大産の果樹を使ったジャム類、ドライフルーツ製造実習に関する基礎知識						1		
11							1		
12							1		
13	農大産の畜産物使ったハム、ベーコン、ソーセージ及び牛乳を使った乳製品製造実習に関する基礎知識						1		
14							1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補習は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補習を認める。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	F105	会社経営		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	模擬会社の運営に関する意見交換会を行ったり、レポートを作成して提出させる。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	模擬会社に関する各組織ごとの運営・経理に関する研究						1		
2							1		
3							1		
4	模擬会社の新役員体制づくり （2年生との引き継ぎ）						1		
5							1		
6							1		
7	模擬会社に関する各組織ごとの会社運営活動						1		
8							1		
9							1		
10							1		
11							1		
12							1		
13	株主総会に向けて資料作成及び決算報告のまとめ						1		
14							1		
15							1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和2年度 授業計画書〔シラバス〕								
科目名	G101	食品衛生／食品表示		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期 後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期 9月～3月
科目の概要	食品衛生に関する知識や技術を身につけ、食品表示・食品安全等の方法を知る。							
講師名	【外部講師】 農業連携推進課 輸出・流通担当 高鍋保健所 農業大学校 農学科フードビジネス専攻 甲斐 紀子						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に準じた食品表示に関する基礎知識を理解することを到達目標とする。							
使用教材	食品表示検定初級テキスト、食品衛生責任者ハンドブック、食品安全検定初級テキスト							
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	食品表示検定の点数・食品衛生管理講習会のレポート・食品安全検定の点数・視察研修のレポートの内容から平均点の90％を評価点とする。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）								
回	内 容					時間	備 考	
1	食品表示の概要					1		
2	輸出に対応する食品表示					1	農業連携推進課	
3	食品表示に関する講義（食品表示検定対策）					1	外部講師	
4	食品表示の目的、生鮮食品の表示					1		
5	加工食品の表示					1		
6	食品表示例と具体的事例					1		
7～12	食品衛生責任者養成講習会食中毒について ・各種食中毒の特徴と対策 ・食品衛生管理 ・食品衛生法 ・私たちの食生活と食品表示					6	高鍋保健所	
13～18	輸出に取り組む企業研修における食品表示について					6	外部講師	
19～24	食品表示について（食品表示検定対策）					6		
25～30	食品安全について（食品安全検定対策）					6		
授業時間外に必要な学修	○食品表示検定（初級）及び 食品安全検定（初級）の受験に向けた学習							
再試験及び補習対象の実施基準	○食品表示検定の初級、食品安全検定の初級を受験のための補習を行う。							

令和２年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	G102	食品化学		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1 2 月
科目の概要	食品実験に関する基礎知識を身につけ、食品の一般分析方法について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食費開発科学科 中瀬昌之							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	○実験器具の使い方に関する基礎知識を身につける。 ○食品分析に関する実験内容を理解し、レポートにまとめる。								
使用教材	講師準備資料、実験器具、試薬類								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		学習態度(減点)		
	基準	実験に関するレポートを提出させ評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	実験器具の使い方、レポートの書き方の説明						3		
	食品の一般分析①－１ 水分の定量								
	食品の一般分析①－２ 灰分の定量								
2	食品の一般分析② リンの定量						3		
3	食品の一般分析③ タンパク質の定量（ケルダール法①）						3		
4	食品の一般分析④ タンパク質の定量（ケルダール法②）						3		
5	食品の一般分析⑤ 資質の定量（ソックスレー法）						3		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	G103	食品製造実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1	学期	前期 後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	4月～3月
科目の概要	農産物、畜産物を使って加工技術を学び、商品開発を学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 主任技師 今吉里華							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度(減点)	
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造技術の習得を判断する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
回	内 容					時間	備 考		
12	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識 食品表示に関する基礎知識					12			
12	農大産の野菜・作物を使った焼き菓子製造実習 農大産の小麦を使った製パン製造実習					12			
12	農大産の果樹を使ったジャム類、ドライフルーツ製造実習 農大産の果樹を使ったピューレ製造実習					12			
12	農大産の畜産物使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造実習 農大産の畜産物を使ったレトルトパウチ食品製造実習					12			
12	新商品開発					12			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和２年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	G104	食品の機能性		学科名	全学科 フード・ビジネス	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1 2 月
科目の概要	食品の機能性に関する基礎知識を身につけ、食品の機能性と体調調節の関係性について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食費開発科学科 寺原典彦氏							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	食品の栄養性、嗜好性、体調調節について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	講座終了後、試験にて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	食品とは					3			
	食品の成分と3つの機能性								
	機能性食品とは								
2	口内や消化管内で作用する機能 虫歯の原因になりにくい食品					3			
	おなかの調子を整える食品								
	コレステロールが高めの方のための食品								
3	カルシウムの吸収を助ける食品					3			
	血糖値が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪が気になる方のための食品								
4	消化管内で吸収後の機能 血圧が高めの方のための食品					3			
	骨の健康が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪や体脂肪が気になる方のための食品								
5	抗酸化作用をもつ食品					3			
	機能性食品の素材と開発								
	試験								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和2年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	G108	フードビジネス		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～3月
科目の概要	宮崎県内におけるフードビジネス振興・農畜産物の生産状況、みやざきブランド推進対策、輸出、食育・地産地消、食の安全・安心等フードビジネスに関する施策について学ぶ								
講師名	外部講師 ・産業政策課 企業推進担当 ・農業連携推進課 輸出流通担当 ・農業連携推進課みやざきブランド推進室 ブランド担当 ・農業県警推進課みやざきブランド推進室 食の安全推進担当 農業大学校 農学科フードビジネス専攻 准教授 甲斐紀子						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	宮崎県内におけるフードビジネス振興・農畜産物の生産状況、みやざきブランド推進対策、輸出、食育・地産地消、食の安全・安心等、宮崎県のフードビジネスに関する施策について学ぶことにより、フードビジネスへの知識を深める。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	各授業の後に、レポート提出状況と後半にテストを行い、知識の習得状況を把握し、評価する			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	講義の進め方、グループワーク					1			
2	みやざきのフードビジネス戦略					1	産業政策課企画推進担当		
3	みやざきブランドについて					1	みやざきブランド推進室		
4	食の安全・安心について					1	みやざきブランド推進室		
5	地産地消について					1	みやざきブランド推進室		
6	農畜産物の輸出について					1	農業連携推進課		
7	宮崎県のフードビジネス企業・支援機関視察 ・みやざきフードビジネス相談ステーション ・食品開発センター ・一般社団法人食の安全分析センター 等					1	担当講師：甲斐		
8						1			
9						1			
10						1			
11						1			
12						1			
13	発表準備					1			
14	発表					1			
15	小テスト					1			
授業時間外に必要な学修	みやざきブランド推進状況等の情報収集を行う								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出状況やテストの点数等が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。								